

## 委託訓練カリキュラム(1年次)

実施施設名	大原医療保育福祉専門学校千葉校			分野	介護福祉士
訓練コース	介護福祉科			資格等	介護福祉士
学 科 ( 講 義 )	科 目	科目の内容	単位数	時 間	左の内パソコン 使用時間数
	人間の理解 I	人間の尊厳と自立では、介護福祉を実践するために必要な人間に 対する基本的理解を養う。一つは福祉理念の歴史的変遷を学ぶこ とを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。ま た、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通して の生活を支える必要性を理解する。	1	30	
	人間の理解 II	人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解を もとに人間関係とコミュニケーションについて理解する。また、コム ニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーション について理解する。チームマネジメントでは、ヒューマンサービスと しての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育 成の管理法の基礎を学ぶ。	2	60	
	社会の理解	社会の理解では、生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家 族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会 における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制 度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉 と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどの ようなものがあるかを具体的に学ぶ。	2	60	
	介護の基本 I	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉 士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とす る人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安 全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、 介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。	1	30	
	介護の基本 II	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉 士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とす る人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安 全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、 介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。	1	30	
	介護の基本 III	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉 士としての倫理に基づき、その機能と役割である、介護を必要とす る人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安 全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、 介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。	1	30	
	介護の基本 IV	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉 士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とす る人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安 全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、 介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。	1	30	
	介護の基本 V	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉 士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とす る人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安 全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、 介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。	1	30	
	介護の基本 VI	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉 士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とす る人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安 全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、 介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。	1	30	
	コミュニケーション技術 I	コミュニケーション技術では、人間関係とコミュニケーションで学ぶコ ミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのより よい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本 的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーション について、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・ 技術を習得する。	1	30	
	認知症の理解	認知症の理解では、認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や 理念等について学ぶ。また、認知症の原因となる主な疾患や症状 の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解する。さらに利用者個々の特性を踏まえた 適切なケアを提供するための知識や支援方法、地域で生活する 認知症のある人とその家族の支援体制のあり方、多職種連絡・協 働のあり方について学ぶ。	2	60	
	こころとからだのしくみ I	こころとからだのしくみ I では、介護サービスを実際に提供する際 に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとから だのしくみの基礎を学ぶ。 こころとからだのしくみ II・III・IV では、こころとからだのしくみ I の 知識を基に、利用者の身じたくや食事、排泄などの生活を支える介 護実践との関係を学ぶ。また、終末期の心身の変化が及ぼす影 響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。	1	30	
	こころとからだのしくみ II	こころとからだのしくみ I では、介護サービスを実際に提供する際 に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとから だのしくみの基礎を学ぶ。 こころとからだのしくみ II・III・IV では、こころとからだのしくみ I の 知識を基に、利用者の身じたくや食事、排泄などの生活を支える介 護実践との関係を学ぶ。また、終末期の心身の変化が及ぼす影 響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。	1	30	
	こころとからだのしくみ III	こころとからだのしくみ I では、介護サービスを実際に提供する際 に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとから だのしくみの基礎を学ぶ。 こころとからだのしくみ II・III・IV では、こころとからだのしくみ I の 知識を基に、利用者の身じたくや食事、排泄などの生活を支える介 護実践との関係を学ぶ。また、終末期の心身の変化が及ぼす影 響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。	1	30	

		小計	17	510	0
実 技 ( 演 習 )	生活支援技術の基本	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	2	60	
	日常生活介護Ⅰ	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	1	30	
	日常生活介護Ⅱ	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	1	30	
	日常生活介護Ⅳ	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	1	30	
	介護過程Ⅰ	介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理義、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際にについて、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。	1	30	
	介護総合演習Ⅰ	介護総合演習では、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通して、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習とする。	2	40	
	介護総合演習Ⅱ	介護総合演習では、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通して、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習とする。	2	40	
	介護実習Ⅰ	介護実習では、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチーム一員としての介護福祉士の役割を理解する。 個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。	3	120	
	介護実習Ⅱ	介護実習では、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチーム一員としての介護福祉士の役割を理解する。 個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。	4	160	
	定期試験	単位修得の為の試験		18	
小計		17	558	0	
就 職 支 援	就職支援Ⅰ	1年次に、就職とは何か、自己分析、自己PRの作成、校長講話、企業セミナー等就職活動の全体把握、就職活動の身だしなみの確認などを行う。また、キャリアコンサルタントによる個別面談を実施する。		15	
合計(1年次合計)		34	1083	0	

### その他

入校式等※	入校式、オリエンテーション、その他各期のガイダンスにて、短期・中期・長期の目標を確認する			20	
-------	----------------------------------------------	--	--	----	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

### 進級要件

#### 学則:(単位の授与)

第20条 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀・優・良・可を取得した学生には所定の単位を与える。

2. 介護福祉科及びこども保育学科の履修においては、次に掲げる3項目に基づき認定する。

(1)授業科目ごとの出席率が基準を満たしている者

授業科目ごとの出席時間数が履修時間数の3分の2に満たない者、及び介護実習・保育実習の出席時間数が履修時間数の5分の4に満たない者は、履修の認定を行わないこととする。

(2)授業科目ごとの学業成績で合格を修めた者

(3)介護実習・保育実習については、実習先施設で実習要件を満たしたと評価された者

3. 1年間に履修できる授業科目の上限は48単位とする。

#### 学則:(進級)

第23条 進級の認定は、各学科の各学年において定める単位の取得状況及び出席状況等学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査する。

## 様式3

## 委託訓練カリキュラム(2年次)

実施施設名	大原医療保育福祉専門学校千葉校				分野	介護福祉士
訓練コース	介護福祉科				資格等	介護福祉士
学 科 (講 義)	科　　目	科目の内容	単位数	時　間	左の内パソコン 使用時間数	
	レクリエーション基礎	レクリエーションの発展過程を見据えながら目標と理念、レクリエーションの展開方法などを理解する。また、高齢者や障害者に対するレクリエーションの与える影響などを踏まえたうえで、生きがい支援やリハビリテーションとしてのレクリエーション計画・実施・評価の方法や安全管理について学習する。	1	30		
	人間と社会の総合	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「人間と社会」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術、介護実習にて得た現場経験を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。	1	30		
	コミュニケーション技術Ⅱ	コミュニケーション技術では、人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。	1	30		
	福祉住環境Ⅰ	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	1	30		
	発達と老化の理解	発達と老化の理解では、介護を必要とする人の理解を深めるため、人間成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援の在り方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。	2	60		
	障害の理解	障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。	2	60		
	こことからだのしくみⅣ	こことからだのしくみⅣでは、介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこことからだのしくみの基礎を学ぶ。こことからだのしくみⅡ・Ⅲ・Ⅳでは、こことからだのしくみⅠの知識を基に、利用者の身じたくや食事、排泄などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。また、終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。	1	30		
	こことからだのしくみの総合	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「こことからだのしくみ」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術、介護実習にて得た現場経験を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。	1	30		
	医療的ケア	医療的ケアでは、医療的ケア実施の基礎と喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)、経管栄養(基礎的知識・実施手順)について学ぶ。		50		
訓 練 の 内 容	小計		10	350	0	
	レクリエーション指導	ホスピタリティトレーニングやアイスブレーキングとは何かを理解して、コミュニケーション能力と促進方法を身につける学習とする。また、目的にあわせたアクティビティを選択、展開、引き出し方法と活用、更に、対象にあわせたアレンジ方法も学習する。学習した内容をもとにアクティビティ体験と指導体験にて、実践力を身につける。	2	40		
	社会常識	社会人としての心構えをはじめ、個人または集団での仕事の進め方、報告連絡相談の必要性を理解する。また、先輩や上司、利用者など、他者への言葉遣いや立ち振る舞い、接遇力を演習を通して学習する。	1	30		
	情報科学演習	既存のソフトウェアを使用し、各種データ集計や統計処理について学び、そのデータを社内外へ報告するための技法(資料作成方法)について学習する。	1	30		
	家事介護	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	1	30		
	日常生活介護Ⅲ	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	1	30		

実 技 ( 演 習 )	日常生活介護Ⅴ	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	1	30
	利用者の状態・状況に応じた介護技	生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識技術を学ぶ。	1	30
	介護過程Ⅱ	介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理義、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。	2	60
	介護過程Ⅲ	介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理義、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。	2	60
	介護総合演習Ⅲ	介護総合演習では、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通して、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習とする。	2	40
	介護実習Ⅲ	介護実習では、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチーム一員としての介護福祉士の役割を理解する。 個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。	4	176
	介護の総合	介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「介護」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術・介護実習にて得た現場経験を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。	3	90
	医療的ケア	医療的ケアでは、医療的ケア実施の基礎と喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)、経管栄養(基礎的知識・実施手順)について学ぶ。	3	28
	定期試験	単位修得の為の試験		12
	小計		24	686
就 職 支 援	就職支援Ⅱ	2年次において、就職活動の手引き、就職活動のスケジュールについて説明を行う。「福祉就職フェア」への参加と準備、必要書類の作成と確認、面接トレーニング、就職活動マナーのレクチャー、ジョブカード作成及びキャリアコンサルティングを行う。		15
合計(2年次)			34	1051
30				

### その他

修了式等※	各期のガイダンスにて、短期・中期・長期の目標を確認する			20
-------	-----------------------------	--	--	----

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

### 修了(卒業)要件

#### 学則:(単位の授与)

第20条 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀・優・良・可を取得した学生には所定の単位を与える。

2. 介護福祉科及びこども保育学科の履修においては、次に掲げる3項目に基づき認定する。

(1)授業科目ごとの出席率が基準を満たしている者

授業科目ごとの出席時間数が履修時間数の3分の2に満たない者、及び介護実習・保育実習の出席時間数が履修時間数の5分の4に満たない者は、履修の認定を行わないこととする。

(2)授業科目ごとの学業成績で合格を修めた者

(3)介護実習・保育実習については、実習先施設で実習要件を満たしたと評価された者

3. 1年間に履修できる授業科目の上限は48単位とする。

#### 学則:(卒業)

第22条 卒業の認定は、第5条に規定する修業年限以上在学して、下記に定める授業時間数以上履修し、かつ下記に定めるところにより授業科目および単位数を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。

介護福祉科は、68単位

こども保育学科は、70単位

2. 前項に規定する卒業の認定は、最終学年の終わりに行う。

## 委託訓練カリキュラム(1年次)

実施施設名		中央介護福祉専門学校			分野	介護福祉士
訓練コース		介護福祉科			資格等	介護福祉士
訓練の内容	人間と社会	科 目	科目の内容	単位数	時 間	左の内パソコン使用時間数
		人間の尊厳と自立	人間の多面的理解と尊厳の保持、人権と尊厳、自立・自律した生活を支える必要性について学ぶ。	2	30	0
		人間関係とコミュニケーション I	介護実践のために必要な人間の理解や、基礎的なコミュニケーション能力を養う。コミュニケーションの意義を学習し、コミュニケーション能力の基礎をなす情報の受け渡しの適切な方法を選び取る力を養う。「対話をする」「意思の疎通を図る」「説明責任がある」ということをふまえて、基礎的なコミュニケーション能力について学習する。	2	30	0
		社会の理解 I	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、家庭生活、家族、地域、社会の基本機能について社会保障が生活にどのように関連してくるのかなどを知識として学ぶ。	2	30	0
	学科	生命倫理 I	「世界や人間すべての問題を対象とする」と言われるほど対象が広い哲学学問の考え方を学びながら、介護・福祉を実践する上で要請される基本的な人間、社会、文化に対する理論などを学習し、「自分なりのもの見方・考え方」を身につける。	2	30	0
		介護の基本 I A	介護の意義や役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して理解する。介護を必要とする人を「生活する人」と受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、「その人らしさ」を大切にすることを学ぶ必要がある。尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深めることをねらいとする。	4	60	0
		介護の基本 I B	介護の意義や役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して理解する。介護を必要とする人を「生活する人」と受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、「その人らしさ」を大切にすることを学ぶ必要がある。尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深めることをねらいとする。	2	30	0
		コミュニケーション技術 I	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、対利用者・利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習を行い、様々な場面における適切なコミュニケーションの実践が可能となることをねらいとする。 また、データ・デジタル技術の活用事例を理解し、その実践のための基本的なツールの利用方法を身につけたうえで、留意などを踏まえて実際に業務で利用できるよう理解する。	2	30	0
		生活支援技術 I A	尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識について習得する学習を行い、基本的な介護技術の知識・技術・態度を習得し、それらを統合して適切に実施できるよう理解する。	4	120	0
		生活支援技術 I B	福祉におけるリハビリテーションの重要性を理解し、適切な援助が出来るよう実際の場面を想定しながら、理論・演習学習を行う。	2	30	0
	介護	介護過程 I	利用者を主体とする生活支援活動の展開方法である。必要な情報収集を行い、その情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画し、実施・評価できるよう、その方法を理解する。事例演習により、個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント能力を養う。	2	60	0
		介護総合演習 I	介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付け等の準備を行い、介護実習前には実践力を身につけることができるようする。	2	60	10
	こころとからだのしくみ	発達と老化の理解A	人間の成長と発達の基礎的な理解のために、誕生から死に至るまでの心身の発達成長・成熟、生理的変化を理解する。また、老化に伴う心身の変化やそれが日常生活に及ぼす影響、老年期に見られる家庭・地域での役割の変化や、友人との別れなどの喪失体験、就労の変化による経済的不安など、高齢者の気持ちについて深く理解する。また、老化を受容し新たな価値形成をしていく過程や成熟していく過程を理解し、高齢者の人格と尊厳を守る個別ケアの基本を学ぶ。	2	30	0

学科 訓練の内容	こころとからだのしくみ	発達と老化の理解B	人間の成長と発達の基礎的な理解のために誕生から死に至るまでの心身の発達成長・成熟、生理的変化を理解する。また、老化に伴う心身の変化やその日常生活に及ぼす影響を理解する。発達と老化の理解Aで学習した内容を振り返りながら老化を受容し新たな価値形成をしていく過程や成熟していく過程を理解し、高齢者的人格と尊厳を守る個別ケアの基本を学ぶ。さらに、高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、生活支援技術の根拠となる知識の習得を図る。	2	30	0
		認知症の理解 I	認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症のある人の現状を理解する。その上で、認知症の原因となる主な病気や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解し、個々に合った的確なケアが提供できるための知識、さらには地域で生活する認知症のある人とその家族を24時間サポートできる支援体制のあり方や具体的な取り組み方法について習得する。	2	30	0
		障害の理解 I	障害の概念や障害者福祉の基本理念を学ぶ。医学的側面からの基礎的知識として、身体、精神、知的、発達障害、難病などについて学び、その症状や合併症などが日常生活に及ぼす影響を理解した上で、障害のある人やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識を習得する。	2	30	0
		こころとからだのしくみ IA	こころとからだの両面から利用者の状態を見、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。そこから残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導きだす。	2	30	0
		こころとからだのしくみ IB	こころとからだの両面から利用者の状態を見、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。そこから残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導きだす。	2	30	0
	医療的ケア	医療的ケア I	介護職員が医療的ケアを安全かつ適切に実施するための必要な知識と技術を習得する。また、医療的ケアに関する法令についても正しく理解し、説明することができる。	1	20	0
	<b>小計</b>			39	710	10
実技	介護	介護実習 I 介護実習A	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から生活の場における個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。人間関係を形成しながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。その生活を継続するためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性を通して学習する。施設等の機能や基本的なケアを学ぶ。	2	90	0
		介護実習 II 介護実習B	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から生活の場における個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。人間関係を形成しながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。その生活を継続するためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性を通して学習する。施設等の機能や基本的なケアを学ぶ。	3	135	0
	<b>小計</b>			5	225	0
就職支援	就職支援	就職支援のために、実技集中指導と就職試験対策個別指導を実施			40	10
<b>合計(1年次合計)</b>			44	975	20	

その他

入校式等※			12	
-------	--	--	----	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

#### 進級要件

次の①、②に該当する学生に対し、その科目の単位を認定する。

- ①授業科目の履修が認定されている。
- ②成績評価の評定が 可 以上である。

## 委託訓練カリキュラム(2年次)

実施施設名		中央介護福祉専門学校			分野	介護福祉士	
訓練コース		介護福祉科			資格等	介護福祉士	
訓練の内容	人間と社会	領域	科 目	科目の内容	単位数	時 間	左の内パソコン使用時間数
		人間関係とコミュニケーションⅡ	介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォローワーシップ等、チーム運営の基本を理解する。社会福祉の対象者は、日々の暮らしの中で何らかの生きづらさ、不便さを感じる人も含まれてくる。ここでは、それらの人たちが地域生活で生活を継続する上で、どのような活動や支援が必要であるかについて学ぶ。	2	30	0	
		社会の理解Ⅱ	介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。介護実践に必要とされる観点から、虐待防止関連法や成年後見制度などの基礎知識を習得する学習とする。介護実践に関連する諸制度などを理解し、基礎知識を学ぶ。	2	30	0	
		生命倫理Ⅱ	「死」と「生」の境界状況をめぐる現代的な諸問題について考察する。日本人における死生観の特質を様々な視点からの分析を通して精神文化的に理解し、「死」と日本人の関わりの構造を把握する。	2	30	0	
	学科	社会と福祉	全人的な理解や尊厳の保持、介護実践に役立つ知識と理解を深め、介護福祉士としての総合的な判断力や基礎基盤を作り、介護福祉士という職業の基礎理解を深める	4	60	0	
		介護の基本ⅡA	介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活を営める生活環境を整えることが可能になるよう多職種協働のあり方を理解する。	4	60	0	
		介護の基本ⅡB	介護従事者の健康管理について学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。また、介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活を営める生活環境を整えることが可能になるよう危機管理や関係職種との連携のあり方を理解する。	2	30	0	
		コミュニケーション技術Ⅱ	障害の程度や種別にあわせた適切なコミュニケーション能力を養う。文書（記録・報告書など）を通して、介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術を学ぶ。また、個人情報の取り扱いや情報の共有、管理の仕方を理解した上で介護の実践が可能になるよう学習する。	1	30	0	
		生活支援技術ⅡA	尊厳保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。基本的な介護技術の知識・技術・態度を習得し、それらを統合して適切に実施できるよう理解する。また、できるだけ、利用者のなじみの環境の中で、その人らしく生きるための生活支援についても理解する。	2	60	0	
		生活支援技術ⅡB	出来るだけ、なじみの環境の中で、その人らしく生きるための生活環境づくりができるよう、実践的な家事援助能力を養う。住まいの役割と機能を理解し、人の生活行動による生活空間を考慮し、快適に生活できる住居の条件を理解する。	4	60	0	
	介護	生活支援技術ⅡC	生活に欠かせない被服の役割や機能、食生活の変化や調理の基礎を理解し、生活支援者としての家事実践能力の基礎を身につける。	1	30	0	
		介護過程Ⅱ	介護過程の理論と実習体験を関連づけながら、介護過程を展開することができる能力を育成する。自立に沿った介護計画、他職種協働によるチームアプローチの必要性と実際を理解する。	3	90	0	
		介護総合演習Ⅱ	様々な角度から思考力、根拠に基づいた介護実践、体験を融合して理論的に表現できるようにする。また、それぞれの実習において課題を決め一つのテーマについてグループワークを重ね、研究発表を行なう。	2	60	10	
	こころとか みらだのしく	認知症の理解Ⅱ	認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症のある人の現状を理解する。その上で、認知症の原因となる主な病気や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解し、個々に合った的確なケアが提供できるための知識、さらには地域で生活する認知症のある人とその家族を24時間サポートできる支援体制のあり方や具体的な取り組み方法について習得する。	2	30	0	

学科	こころとからだのしくみ 医療的	障害の理解Ⅱ	障害の概念や障害者福祉の基本理念を学ぶ。医学的側面からの基礎的知識として、身体、精神、知的、発達障害、難病などについて学び、その症状や合併症などが日常生活に及ぼす影響を理解した上で、障害のある人やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識を習得する。	2	30	0
		こころとからだのしくみⅡ	こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。そこから残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導きます。	4	60	0
		医療的ケアⅡ	介護職員が医療的ケアを安全かつ適切に実施するための必要な知識と技術を習得する。また、医療的ケアに関する法令についても正しく理解し、説明することができる。	3	50	0
		小計		40	740	10
訓練の内容	実技	介護実習Ⅰ 介護実習D	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から生活の場における個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。人間関係を形成しながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する条件について理解する。その生活を継続するためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性を実習を通して学習する。施設等の機能や基本的なケアを学ぶ。	1	45	0
		介護実習Ⅱ 介護実習C	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から生活の場における個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。人間関係を形成しながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。その生活を継続するためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性を通して学習する。施設等の機能や基本的なケアを学ぶ。	4	180	0
		小計		5	225	0
就職支援	就職支援	就職支援のために、実技集中指導と就職試験対策個別指導を実施			40	10
合計(2年次)				45	1,005	20

その他

修了式等※				8	
-------	--	--	--	---	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

修了(卒業)要件

本校所定の教育課程を修了した者に卒業の認定をする。
---------------------------

## 様式3

## 委託訓練カリキュラム(1年次)

実施施設名	成田国際福祉専門学校			分野	介護福祉士
訓練コース	介護福祉士学科			資格等	介護福祉士
訓練の内容	科 目	科目の内容	単位数	時 間	左の内パソコン使用時間数
学 科 (講義)	人間の尊厳と自立	人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする	2	30	
	人間関係とコミュニケーション	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基本的なコミュニケーション能力を養うための学習とする	2	60	
	情報概論	情報化社会に対応できるように、数学的思考を基に情報を処理できる技法を修得する。データ・デジタル技術の活用その実現のための基本的なツールの利用方法を身につける理解する	2	30	30
	介護の基本 I	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解する	4	60	
	介護の基本 II	「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習	4	60	
	心理学	人間の心理を把握する枠組となる知識を獲得し、利用者理解・援助に役立てる	2	30	
	生活支援技術 I	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重した生活援助技術を学習する	4	60	
	生活支援技術 II	尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を修得する	8	120	
	生活支援技術 III	尊厳の保持の観点から、利用者の状態・状況に応じた自立・自律を尊重した、介護技術を学習する	4	60	
	発達と老化の理解	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習	4	60	
	認知症の理解	認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習	2	30	
	コミュニケーション技術	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーションの能力を身につけるための学習	2	30	
	障害の理解	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習	2	30	
	こころとからだのしきみ	介護技術の根柢となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習	4	60	
	介護過程	他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習をする	4	60	
医療的ケア	医療的ケア実施の社会背景を理解し、チーム医療を担う一員であることを自覚する。その上で医療倫理を遵守し、安全・安心な医療的ケアを実践できるようになる。	2	30		
	訓練時間小計	52	810		

	介護総合演習	実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生等が学校等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習をする。	4	60	0
	介護実習Ⅰ	介護福祉士の実務を行う介護施設等において、導入段階の実習として、介護福祉利用者の生活の様子及心身の様子を実習を通じ理解し、コミュニケーションのとり方を学ぶ。	1	35	0
	介護実習Ⅱ	介護福祉士の実務を行う介護施設等において、基本技術の確認段階の実習として、介護福祉利用者の生活援助に必要な基本的技術を職員の指導を受け習得する。	2	91	0
	介護実習Ⅲ	介護福祉士の実務を行う介護施設等において、生活援助に必要な基本的技術を職員の指導を受け習得する。また、介護利用者の心身の状態を観察の項目に従って把握する。	3	140	0
	訓練時間小計			10	326
就職支援					8
合計(1年次合計)			62	1144	

その他

入校式等※				3
※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。				
進級要件				
①各教科の出席数8割以上 ②定期試験合格 ③実習評価にて不可なし				

## 様式3

## 委託訓練カリキュラム(2年次)

実施施設名	成田国際福祉専門学校			分野	介護福祉士
訓練コース	介護福祉士学科			資格等	介護福祉士
訓練の内容  科 (講義)	科 目	科目の内容	単位数	時 間	左の内パソコン 使用時間数
	リスクマネジメント	個人や企業・団体・組織が直面するリスクを理解し、リスクの発生を防止または低減する管理手法を学習する。	2	30	0
	法学	法の基本的概念の理解と介護福祉士に求められる人権感覚の涵養	2	30	0
	介護の基本Ⅱ	「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習	4	60	0
	生活支援技術Ⅱ	尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する	2	30	0
	生活支援技術Ⅲ	尊厳の保持の観点から、利用者の状態・状況に応じた自立・自律を尊重した、介護技術を学習する	4	60	0
	認知症の理解	認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習	2	30	0
	社会と制度の理解	・個人が自立した生活を営むのということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点をやしない、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習をする ・わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史の変遷、しくみについて理解する学習とする ・介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする ・介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの学習とする	4	60	0
	障害の理解	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習	2	30	0
	医療的ケア	医療的ケア実施の社会背景を理解し、チーム医療を担う一員であることを自覚する。その上で医療倫理を遵守し、安全・安心な医療的ケアを実践できるようになる。	3	40	0
就職支援	こころとからだのしくみ	介護技術の根柢となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習	4	60	0
	介護過程	他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習をする	6	90	0
	情報概論	情報化社会に対応できるように、数学的思考を基に情報を処理できる技法を修得する。データ・デジタル技術の活用その実現のための基本的なツールの利用方法を身につける	2	30	30
	訓練時間小計		37	550	
	介護総合演習	実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生等が学校等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習をする。	4	60	0
	介護実習Ⅳ	期間中受け持ち利用者を担当させていただき介護過程の展開をする。そしてその実践を通して介護福祉士として将来自分がどう援助をするか振り返り、介護福祉士像を構築する。	4	210	0
	選択実習	対象者の生活を地域で支えるための関りや地域での生活を支える多様なサービスの役割や地域福祉、地域資源の理解を深める	1	21	0
	訓練時間小計		9	291	
合計(2年次)			54	849	

その他

修了式等※			3	
※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。				

①各教科の出席数8割以上      ②定期試験合格      ③実習評価にて不可なし

## 委託訓練カリキュラム(1年次)

実施施設名	江戸川学園おおたかの森専門学校			分野	介護福祉士
訓練コース	介護福祉学科			資格等	介護福祉士
学 科 (講義)	科 目	科目の内容	単位数	時 間	左の内パソコン 使用時間数
	介護の基本Ⅰ	介護の歴史および法律	2	30	0
	介護の基本Ⅱ	介護における自立やICFの概念理解	2	30	0
	介護の基本Ⅲ	介護を必要とする人の理解	2	30	0
	こころとからだのしくみⅠ	人のこころの理解	2	30	0
	こころとからだのしくみⅡ	解剖生理におけるからだの理解	4	60	0
	こころとからだのしくみⅢ	生活行為におけるからだの理解	2	30	0
	発達と老化の理解Ⅰ	人間の発達に関する心理学的理解	2	30	0
	認知症の理解Ⅰ	認知症の医学的理解	2	30	0
	障害の理解Ⅰ	障害の医学的理解	2	30	0
	医療的ケアⅠ	医療的ケアの基礎的理解		8	0
	人間の尊厳と自立	ケアにおける尊厳と自立支援の基礎的理解	2	30	0
	人間関係とコミュニケーションⅠ	コミュニケーションと関係形成の基礎理論	2	30	0
	社会の理解Ⅰ	社会のしくみ、社会保障制度の概要	2	30	0
訓 練 の 内 容	社会福祉概論	社会福祉法制、福祉サービスの全体像	2	30	0
	生命倫理	ケアにおける生命倫理の基礎	2	30	0
	小計		30	458	0
	レクリエーションとアクティビティ	福祉レクリエーションの理論および方法	1	30	0
	基礎ゼミナール	高等教育機関の学習方法および文章表現等	1	30	0
	コミュニケーション技術	利用者や家族、職員間の関わり方の基礎	2	60	0
	生活支援技術Ⅰ	生活の理解、生活支援の方法	1	30	0
	生活支援技術Ⅱ	基本的な介護技術の原則・方法	2	60	0
	生活支援技術Ⅲ	応用的な介護技術の原則・方法	2	60	0
	介護過程Ⅰ	介護過程の基礎的理解	1	30	0
	介護過程Ⅱ	アセスメントの理解および展開方法	2	60	0
	介護総合演習Ⅰ	介護実習の事前指導	1	30	0
	介護総合演習Ⅱ	介護実習の事後指導・次回実習の事前指導	1	30	0
	情報処理 (基礎的ITリテラシー含む)	介護士に必要なPC操作、IT活用、情報セキュリティの重要性等、ITに関する法規制等		30	30
	介護実習Ⅰ	事業所実習Ⅰ(通所・入所施設12日間)	3	90	0
実 技 (演 習)	介護実習Ⅱ	事業所実習Ⅰ(認知症グループホーム4日間)	1	30	0
	介護実習Ⅲ	事業所実習Ⅱ(入所施設18日間・介護過程アセスメント)	4	140	0
	特設学生指導	クラス指導および全体指導		48	0
小計			22	758	30

就職支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任による進路希望調査のため個別の面接と指導</li> <li>・進路に向けた下調べや見学等の指導及び履歴書作成指導、就職試験対策</li> <li>・実習就職センターによる就職ガイダンス（就職に対する心構え、電話のかけ方見学の際の留意点、訪問マナー等）</li> <li>・福祉現場の職員による就職ガイダンス</li> </ul>	16		
合計(1年次合計)		52	1232	30

その他

入校式等※	入学式、健康診断、学科指導、学生生活および授業への心構え、学生生活及び学習・実習に関するオリエンテーション	20	
-------	-------------------------------------------------------	----	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項（学校紹介など）に係るオリエンテーションを含む。

#### 進級要件

原則として、1年次の科目を履修済でなければ進級できない。進級に必要な最低履修時間は800時間となっている。なお、800時間には「医療的ケアⅠ」および「介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は含めないものとする。

## 様式3

## 委託訓練カリキュラム(2年次)

実施施設名	江戸川学園おおたかの森専門学校			分野	介護福祉士
訓練コース	介護福祉学科			資格等	介護福祉士
訓練の内容	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン使用時間数
	介護の基本Ⅳ	介護サービスの概要および特性等	2	30	0
	介護の基本Ⅴ	リスクマネジメントおよび他職種連携の理解	2	30	0
	介護の基本Ⅵ	介護従事者の倫理・ノーマライゼーションの理解	2	30	0
	人間関係とコミュニケーションⅡ	ケア現場におけるチームマネジメント	2	30	0
	発達と老化の理解Ⅱ	人間の老化に関する心理的・身体的理解	2	30	0
	認知症の理解Ⅱ	認知症の利用者へのケア方法、理念等	2	30	0
	障害の理解Ⅱ	障害への概念的理解、障害者福祉の法制度	2	30	0
	医療的ケアⅠ	喀痰吸引・経管栄養の具体的方法と留意点	4	60	0
	社会の理解Ⅱ	介護保険法、障害者自立支援法等の制度	2	30	0
	発達支援論	人間の発達と成長、老化にともなう心身の変化	2	30	0
	福祉経営論	福祉サービス提供における経営的視点	2	30	0
	民法・福祉法制	成年後見制度や福祉六法の理解	2	30	0
	介護総論Ⅰ	「人間と社会」国家試験対策	2	30	0
	介護総論Ⅱ	「介護」国家試験対策	2	30	0
	介護総論Ⅲ	「こころとからだのしくみ」国家試験対策	2	30	0
小計			32	480	0
実技(演習)	生活支援技術Ⅳ	肢体不自由、視覚障害、聴覚障害者への支援	2	60	0
	生活支援技術Ⅴ	内部疾患の理解とケア方法	1	30	0
	生活支援技術Ⅵ	家庭経営、被服、住居に関する基礎理解	1	30	0
	生活支援技術Ⅶ	栄養に関する基礎理解及び調理方法	1	30	0
	介護過程Ⅲ	介護計画立案、実施、評価の理解・展開方法	2	60	8
	介護総合演習Ⅲ	介護実習の事後指導・次回実習の事前指導	1	30	0
	介護総合演習Ⅳ	介護実習の事後指導・実習報告書作成	1	30	20
	介護実習Ⅳ	事業所実習Ⅱ(入所24日間 介護過程の展開)	6	190	0
	医療的ケアⅡ	経管栄養・喀痰吸引の留意点・方法(実技)	1	22	0
	特設学生指導	クラス指導及び全体指導		40	0
小計			16	522	28
就職支援		・クラス担任が隨時、個別に相談や面談を行い就職希望先の決定・履歴書作成・面接試験の対策等をサポートする。 ・福祉現場の職員による就職ガイダンス ・就職内定後の書類作成・就職に向けた準備等についても、クラス担任を中心に行き学科教員全体で支援していく。 ・実習就職センターによる就職ガイダンス(業界動向解説、求人票の見かた、履歴書作成の留意点、面接時の服装や化粧・マナー等)による指導助言も行う。		24	
合計(2年次)			48	1026	28

---

## その他

修了式等※	学科指導、授業・国家試験・就活への心構え、卒業式等			4	
-------	---------------------------	--	--	---	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

### 修了(卒業)要件

修了(卒業)には、1年次、2年次の科目を全て履修しなければ修了(卒業)できない。

## 委託訓練カリキュラム(1年次)

実施施設名	京葉介護福祉専門学校			分野	介護福祉士
訓練コース	介護福祉科			資格等	介護福祉士
訓練の内容	科 目	科目の内容	単位数	時 間	左の内パソコン使用時間数
学科(講義)	人間と社会	人間の尊厳と自立	2	30	
		人間関係とコミュニケーション I	2	30	
		社会の理解A	2	30	
		○選択科目(指定)			
		レクリエーション活動援助法	2	30	
	介護	介護現場に役立つ日誌・報告書の書き方	2	30	
		介護の基本 I・II	8	120	
		発達と老化の理解 I	2	30	
		発達と老化の理解 II	2	30	
		認知症の理解 I	2	30	
	こころとからだのしくみ	認知症の理解 II	2	30	
		障害の理解 I	2	30	
		こころとからだのしくみ I	4	60	
		こころとからだのしくみ I・II	2	30	
		医療的ケア(講義)		15	
	小計			34	525
	実技(演習)	介護	コミュニケーション技術 I	1	30
			生活支援技術 I	2	60
			生活支援技術 II	4	120
			介護過程 I	1	30
			介護過程 II	1	30
			介護総合演習 I	1	30
			介護総合演習 II	1	30
			介護実習1	2	90
			介護実習2	3	135
			介護実習4-①		22
	小計			16	577
	就職支援	社会人としての心構え、職業倫理等			0
合計(1年次合計)			50	1117	0
その他	選択科目は2年間で120時間(8単位)取得。 医療的ケア講義は2年次と合わせて5単位。試験対策講座は単位外。				
入校式等※				2	

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

### 進級要件

- ・本校所定の科目を履修した者に対して筆記および実技試験の成績、平素の課題学習状況並びに出席状況などを総合的に評価し、一定の基準を満たした場合は、単位認定会議を経てその単位取得を認定する。
- ・厚生労働省指定科目(必修科目)については、単位未認定となった場合は、再履修しなければならない。
- ・前項の教科目以外(選択科目)については4科目8単位以上の単位認定を必要とする。

## 委託訓練カリキュラム(2年次)

実施施設名	京葉介護福祉専門学校			分野	介護福祉士
訓練コース	介護福祉科			資格等	介護福祉士
訓練の内容	科目	科目の内容	単位数	時間	左の内パソコン使用時間数
	学科(講義)	人間と社会	社会の理解B 人間関係とコミュニケーションⅡ ○選択科目(指定) 権利擁護・成年後見制度 児童福祉 手話 家庭	2 2 2 2 2 2 2	30 30 30 30 30 30 30
		介護	介護の基本Ⅱ こころとからだのしくみⅢ 障害の理解Ⅱ	4 2 2	60 30 30
		こころとからだのしくみ			
		医療的ケア	医療的ケア(講義)	4	35
		特別講義	試験対策講座		60
			小計	24	395
					0
	実技(演習)	介護	コミュニケーション技術Ⅱ 生活支援技術Ⅲ 介護過程Ⅲ 介護過程Ⅳ 介護総合演習Ⅲ 介護総合演習Ⅳ 介護実習3 介護実習4-② 医療的ケア演習	1 4 2 1 1 1 4 1	30 120 60 30 30 30 180 23 45
			小計	15	548
					0
合計(2年次)			39	960	0

その他 選択科目は2年間で120時間(8単位)取得。医療的ケア講義は2年次と合わせて4単位。  
試験対策講座は単位外。

修了式等※			2	
-------	--	--	---	--

※入校式・修了式には、訓練以外の事項(学校紹介など)に係るオリエンテーションを含む。

## 修了(卒業)要件

学則に定められた卒業に必要な単位数は次のとおりとする。

- 必修: 77単位(1,805時間)
- 選択: 8単位( 120時間)

合計85単位 1,925時間